

VOL. 138

世界がわかる。ADRAがわかる。



ADRA

EST.1985 2023

News 12



世界の
「ギフト」にまつわる
エピソードをあなたに

「日本の子どもからウクライナの子どもへ」と書かれたギフトを受け取った子ども。
「チルドレン・チルドレン」という支援の仕組みで、あげる側ももらう側も笑顔になる連鎖が起きている。

ADRA Japan 事業マップ

ADRA Japanは、約120の国と地域に支部を持つ世界最大規模の国際NGOであるADRAの日本支部です。人種・宗教・政治の区別なく支援活動を行うことをモットーに、海外および日本国内の各地にて様々な活動を行っています。

CZECHIA チェコ



ウクライナ難民支援

チェコでは、避難中のウクライナの人々に働く場を提供しています。ADRAが運営するチャリティーショップの店員として働く中、チェコの言語や文化に触れることが、避難先の社会に適応する助けにもなっています。



緑のADRAシャツを着て、チャリティーショップで働くウクライナの女性たち

TÜRKIYE, SYRIA トルコ・シリア



地震被災者支援

シリアのアレッポとラタキアで、2月の地震で被災した人々の支援を継続中です。食料、衛生用品、衣類などの配付のほか、学校や水道の修理を進めています。これまでに延べ30万人以上に支援を届けることができています。



ラタキアでの衛生用品配付活動

ZIMBABWE ジンバブエ



教育環境改善支援

現在、ジンバブエ北部にある小学校3校で、新校舎の建設や、教育への意識向上を目的とした啓発活動に取り組んでいます。これまで学校に通えていなかった子どもたちへ教育の機会が広がっています。



新校舎が建つまでは、授業はかやぶき小屋で実施されている

SLOVAKIA スロバキア




ウクライナ語の授業や楽しいアクティビティは、子どもたちへの心のケアにもなる

ウクライナ難民支援

ウクライナの隣国スロバキアでは、国に帰れる日を待ちながら避難生活を送る方々に寄り添い、物資や現金の給付、心のケアなどに取り組んでいます。ウクライナの子どもたちへの母国語のクラスも開講されています。

UKRAINE ウクライナ




電力不足の病院に大型の発電機を提供

人道支援

戦争が続くウクライナでは、人々の命をつなぐ食料配付、現金給付、冬に向けての生活支援、病院への発電機の提供などを続けています。また日本の支援で、支援物資の輸送用トラックや倉庫の配備も進んでいます。

ETHIOPIA エチオピア



紛争危機対応水衛生支援

紛争の影響により多くの国内避難民が発生したアムハラ州では、干ばつと紛争で壊れた給水設備の影響で水不足が深刻です。ADRAは給水設備の修繕や衛生用品配付など、水衛生環境を改善する活動を実施しました。



水衛生委員会に給水施設修繕用資材を提供

ADRA Japan

AFGHANISTAN アフガニスタン



食料支援

経済危機や、自然災害の影響により生活状況が悪化したパーミヤン県の1,220世帯に、食料・衛生キット配付と衛生・栄養啓発を行いました。10月7日にヘラート県で発生した地震被災者支援も開始しています。



1か月分の食料を受け取るため、多くの人は一輪車などを持参

MYANMAR ミャンマー



国内避難民支援

ミャンマーでは内戦により、今も190万人が家を追われ厳しい避難生活を強いられています。ADRAは、東部カレン州での食料配付と衛生予防の改善活動を通じて、避難民の方々の命をつなぐ支援を続けています。



支援対象地域で住民に事前説明を実施

GEORGIA ジョージア

ウクライナ難民支援

ジョージアには24,000人以上のウクライナ人が避難しており、その多くが職に就けていません。生活に必要な出費は多い中、それぞれでやりくりできるよう、現金給付を実施し人々の生活を支援しています。



お金の代わりに使えるバウチャー（真ん中の女の子が手に持っているカードのようなものを）を配付

YEMEN イエメン



農業復旧支援

農業を再開できるよう、灌漑の修復を支援しています。紛争の影響で壊れたままになっていた灌漑設備が直り、畑に水が戻りました。農作物が豊かに育ち、人々は以前の生活を取り戻せる期待も広がっています。



灌漑設備が修復されたことにより枯れていた大地に緑が戻ってきた



NEPAL ネパール

栄養・水衛生

ネパール西部バルディア郡は、母子の栄養状態や安全な水へのアクセス、衛生習慣の改善が喫緊の課題です。人々の健康のため、地域の保健衛生を担うスタッフ・ボランティアの育成や施設の拡充に取り組んでいます。



保健ボランティアに対する研修で住民サービスの向上を図る

教育支援〈ナマステ基金〉

家計の困窮や社会風習のため、いまだに通学困難な子どもが多くいます。皆さまの温かいご支援により、現在67人の子どもたちが通学を継続できています。子どもたちの未来を支えてくださるサポーターを追加募集中です。



学校の窓からひょっこり顔を出し笑顔を見せる子ども

JAPAN 日本

ADRA International (世界本部)

国内災害被災者支援

9月上旬に、関東や東北で大きな被害をもたらした台風13号。千葉県大多喜町や茂原市等で現地の支援団体や学校と協力し活動しています。物資支援や調査、足湯等の活動を通して、被災した方に寄り添い続けています。



お友達を誘って足湯に参加するなど、多くの人が足を運ばれた

ご紹介している事業は皆さまからのご寄付のほか、以下の機関・団体から助成や支援を受けて実施しています(以下敬称略)。

- 日本NGO連携無償資金協力(ウクライナ、ジンバブエ、ネパール)
- 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(アフガニスタン、イエメン、ウクライナ、エチオピア)
- 公益財団法人 テルモ生命科学振興財団(ネパール)
- 公益財団法人 風に立つライオン基金(ネパール)
- 赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」(国内災害被災者支援)
- 花王ハートポケット倶楽部(ジンバブエ)
- 公益財団法人 森村豊明会(エチオピア)

- ADRA Japan実施事業
- 世界のADRA支部がある国と地域

ADRA JAPANの活動

世界の「ギフト」にまつわるエピソードをあなたに

12月から1月は、クリスマスプレゼントやお年玉など、「ギフト」が身近になる時期です。渡す側も受け取る側も笑顔になるギフトは、皆さまのもとからも世界各地に届いています。なかには一生残るギフトも。「モノ」だけではない、ギフトにまつわるエピソードをお届けします。



学資支援を受けるネパールの子どもたち。子どもにとって教育は未来をひらく大切なギフト

NEPAL ネパール

ネパールでは誕生日を祝ってもらった人が、ギフトをもらったお返しに、アメやチョコレートを渡す習慣があります。この風習には、自分だけでなく周りの人々にも幸せをお裾分けするという意味が含まれています。

ADRAは西ネパールのバルディヤ郡で栄養・水衛生環境改善の一環として、医療関係者への研修や、彼らを中心として住民の方々に健康が広がる仕組みを作り始めています。ここでも、ギフトを贈る文化が息づいています。

研修に参加した公衆衛生責任者の女性は「今回学べたことはとても意味のあるものです。私は健康に携わる仕事を楽しくしており、自分の幸せは、身に付けた栄養の知識や経験を他の人に伝え理解してもらうことです」と話しました。ネパールでは、自身の行動はいずれ自分の元へ返ってくるというカルマ(業)が強く信じられています。彼女は自分に与えられた役割のもと、栄養の知識というギフトを他の人に渡すことに喜びを感じています。

私たちは地域の医療従事者の方々の力を借りながら、ネパールの人々へ健康というギフトを渡していくことを目

標に活動しています。ギフトが与えられたら、お返しをするというネパールの本来の習慣がADRAの活動をさらに後押ししてくれています。

また、教育支援(ナマステ基金)では、子どもたちは学用品やテスト費用などの「モノ」や「お金」によるギフトと、その支援によって学校に通い続け、最終的には「将来への切符」のギフトを受け取ります。

ここに、7年間の継続支援により学業を続け、「将来への切符」を手にしたキムタヒさんを紹介します。彼女は昨年、看護師専門学校を卒業し、今は神経移植と整形外科を専門とした看護師として働いています。両親と弟の4人家族ですが、父親は統合失調症で働くことができず、母親が農業で得るわずかなお金で暮らしています。弟は障がいがあり、キムタヒさんは看護師になって、家族の支えになりたいという夢を持つようになりました。支援がなければ学校に通い続けることが難しかったキムタヒさんは、看護師という「将来への切符」を得ることができたことに、何度も何度も感謝の言葉を述べています。もうすぐクリスマスです。



栄養のあるご飯を食べ、嬉しそうな子ども

クリスマスプレゼントに勝るとも劣らない「ナマステ基金」によるギフトは、子どもたちに大きな夢を与え続けています。スポンサーの方々には、支援を受けている子どもたちからクリスマスカードが届きます。笑顔が連鎖するお返しのギフトです。



看護師として働くキムタヒさん(右)と弟さん

ZIMBABWE ジンバブエ

ジンバブエの人たちは、ギフトをあげるのも、受け取るのも大好きです。大切な人への愛情を示すために、クリスマスや誕生日などにギフトを贈ることは、ジンバブエ文化のひとつになっています。農村部では、結婚のお祝いに鶏や牛をプレゼントする習慣があります。

ADRAはジンバブエの事業地の子どもたちの「勉強ができる毎日」という教育の権利を守るために、学校建設・啓発活動・学用品の支援などを行っています。そうした心のこもった支援は、子どもたちにとっては忘れることのできないギフトのように思われています。今回はADRAからソーラーランタンや文房具を受け取った子どもたちの声を紹介します。

「両親は僕が1年生のときに亡くなりました。祖父母と暮らすようになり、

生活はとても苦しかったです。3年生のときに小学校を中退して以来、学校には通っていませんでした」

これは14歳の少年、シモン君の言葉です。2023年初めにADRAが教育キャンペーンを行ったコミュニティから励ましを受けて、今年、彼は5年ぶりに学校に戻ることができました。彼が現在通っているマジャゾ小学校の特別教室では、シモン君のように学校に通えていなかった子どもが、学校に戻れるようサポートするためにADRAが開講しているもので、制服や文房具の支援も受けることができます。今年は、皆さまのご支援と日本NGO連携無償資金協力の助成金により、家庭学習や宿題の際に使用するソーラーランタンも提供できました。

「僕は、ADRAの皆さんに心から感謝しています。ソーラーランタンの灯



約5年ぶりの小学校で、再度勉強ができることを喜ぶシモン君

りのおかげで、家で勉強することができ、学習の質が向上しました」「時々、夜に家の中に蛇が入ってくるんです。暗いと蛇がどこにいるかわからないし、読書や宿題をするのも大変でした。ソーラーランタンのおかげで、家族が暗闇の脅威から解放され、安心して学べるようになりました」など、喜びの声がたくさん届いています。

YEMEN イエメン

イエメンのほとんどの方が信仰するイスラム教には、ザカート（喜捨：惜しむ心なく、喜んで施すこと）という



収穫した野菜を誇らしげに見せる男性

寄付の習慣があります。ザカートは公の機関によって集められ、貧しく困窮した家庭の人々の生活を支えるものとして使われていました。しかし、長い内戦の影響で生活の糧を失ってしまった人も多く、今はこの仕組みは機能なくなっています。現在ADRAは、イエメンで農業を営んでいた方々の生計の回復に努めており、灌漑修復や機具の修理を支援しています。農業で再び収入を得られるようになった人々の表情には喜びと自信と期待があります。十分に生計が回復した暁には、今まで実践したい気持ちがあってもできなかったザカートも、再開していきましょう。

ETHIOPIA エチオピア

紛争の影響で約10,500人が暮らすジャラ国内避難民キャンプでは、十分な生理用品を用意できない女性に、再利用可能な生理用布ナプキンを配付しています。エチオピアの女性が生理用品不足による感染症などに苦しんでいることを学んだ日本の高校生は、ADRAの活動を知り、「少しでもエチオピアの女性の力になるために、ADRAさんの活動に協力させていただきたい」と連絡をくれ、皆で集めた募金を寄付してくれました。支援と共に、高校生たちの思いやりのギフトも届けられました。

AFGHANISTAN**アフガニスタン**

贈り物をするのは、アフガニスタン文化にも根付いています。誕生日や記念日にプレゼントを贈ることは、日本と同じです。また初めて誰かの家を訪れる時には、小さな敷物やティーセットなど、何かしら贈り物を持ていきます。ただ、アフガニスタン特有の文化として、贈り物はすぐに差し出さず、家に入る際、玄関のドア近くかテーブルの上にさりげなく置き、受け取った側はあとで自分のタイミングで贈り物を開けるという暗黙の習慣があります。目の前で渡すとその場で開けることを求めているようで、気まずいと考えられているためです。その他、イードというラマダン(断食月)終了時のお祝い、あるいはイスラム教カレンダーの最終月の犠牲祭には、恵まれない親戚や友人・隣人に、現金や服、食べ物を贈ることが一般的です。

現地スタッフのハミッドが、これまで受け取った中で、最も大切な贈り物と感じているものは、本人が英国で修士号を取得すると決めた時、彼の兄がそれを応援し、費用の一部を負担してくれたことでした。これは彼の人生を変えました。現在、女性が学ぶことが大きく制限されているアフガニスタンですが、全ての人が教育というギフトを得られる日がくると信じて、活動しています。



積極的に授業に参加する女の子。現在は6年生までは学校に通うことができる

JAPAN**日本**

先日、東日本大震災の支援活動時からお付き合いのある、宮城県山元町の子育てひろば「夢ふうせん」さんからたくさんの雑巾が届きました。雑巾は水害被災地支援のためにADRAが集めているもので、ちくちくボランティアの募集の呼びかけに応じてくださったものです。

夢ふうせんさんは東日本大震災発生後、仮設住宅近くで、乳幼児の一時預かりなどを行っていました。ADRAは、空気清浄機や電子レンジ、お散歩用のカートなど、活動に必要な資器材を寄贈しました。また、2021年2月に福島県沖を震源とする地震が発生した折にも、食品や消毒ジェルなどをパックにして夢ふうせんさんに贈り、「忘れられていないと感じ、嬉しかった」という声をいただきました。

夢ふうせんさんには、ちくちくボランティアへの協力を呼びかけたことはありませんでしたが、ADRAのホームページで募集を目にし、子育てで忙しい合間に「震災の時もその後も、多くの人に助けてもらったので、少しでもお返しできたらな」と皆さんで縫ってくださったそうです。心のこもった雑巾は、水害が発生してしまったときにありがたく使わせて頂きます。支援の輪が広がる「ギフト」をいただき、温かい気持ちになった出来事でした。



夢ふうせんさんが縫ってくださった、心のこもった雑巾

MYANMAR**ミャンマー**

ミャンマーは寄付文化が国民に浸透しています。街を歩く僧侶や尼僧に対するお布施や、物乞いに寄付や食べ物あげる行為を、日常的に見かけます。これは、9割近くが仏教徒であるミャンマー人が「輪廻転生」を信じていることと深く関係しています。「人に尽くすことで功德を積み、現世や来世でのリターンを期待する」という思想です。寄付を受ける側はお金や食べ物を得、寄付をする側は功德を積むチャンスを得る、という考えです。一方的に施しを行うのではなく、このような相互利益が成立しているからこそ、生活の中に寄付という行いが深く根付いているのかもしれませんが。

今日、ミャンマーは政情が不安定で、内紛によって追われた少数民族の避難民が多数存在します。地元の人々は、避難してきた人々に滞在場所や寝床を提供し、トイレや水源を共有し、食料などを進んで分け合います。着の身着のまま避難してくる方に荷車を貸したり、少額ながら金銭的援助をしたりすることもあります。ADRAが避難民の方に配付する食料が、人々が村の方々から借りた荷車で運ばれていったこともありました。困難な状況にある人々の命は、多くの人から届くギフトによって支えられています。



食料配付について問い合わせをする避難民の母親

UKRAINE

ウクライナ

ADRAには子どもたちが子どもたちに思いやりを届ける「チルドレン・チルドレン」という取り組みがあります。児童養護施設などで暮らし、普段プレゼントを受け取ることができない子どもたちに、ギフトを届ける活動です。

今年の初夏、ウクライナの子どもたちに、ギフトと一緒に笑顔届けたいという思いを持った高校生たちが立ち上がり、街頭募金やSNSでの発信などを頑張りました。ギフトだけではなく、ギフトをもらったという子ども時代の思い出もプレゼントしたいという高校生たちの思いは、多くの人の共感を得ることができました。

ギフトの箱詰めはウクライナの隣国スロバキアで、現地の子ども、そしてスロバキアに滞在しているウクライナの子どもたちが丁寧に行いました。日本の高校生が書いたイラストメッセージを印刷してカードを作り、梱包をした子どもたちが心を込めて励ましの言葉を書き添え、ギフトに入れました。すでに700箱がウクライナとスロバキアに避難中の子どもたちのもとへと届けられました。戦況の悪化で学校が閉鎖されてオンライン授業になっていた子どもたちからは、「友達となかなか遊ぶこともできない中で、プレゼントをもらえて嬉しい!」という声があがりステキな笑顔を見ることができました。また、箱を受け取ったその場ですぐに開封し、中に入っていたおもちゃで遊び始めた子どもたちの姿には、私たちの胸も温くなりました。

寄付集めに取り組んだ日本の高校生たちは、「活動を通して私たちもとても成長することができました。お菓子を届けたウクライナの子ども達からは、勇気と学ぶ意欲をもらいました」



ギフトに同封する手書きのメッセージを作成中。反対側には日本の学生が描いた絵がプリントされている

と、ギフトには受け取る側だけでなく贈る側にも嬉しい効果があることを教えてくれました。

今年もADRAは「チルドレン・チルドレン」を実施します。平穏で不安のない生活を待ち望んでいるウクライナの子どもたちに寄り添い、笑顔届けられるよう、プレゼントを贈る準備をしています。



ギフトを受け取った子どもたち

ウクライナ支援への寄付金が減っています。暗く寒い冬を温かく過ごせるよう活動を進めています。皆さまのご支援をよろしくお願いたします。

ご寄付はこちらから

<https://x.gd/Vlz0b>



ADRA Japanを
支えてくださる方
をご紹介します!



小河知見さん
(主婦/パート)

——ADRA Japanを知ったきっかけ

セブンスデー・アドベンチスト教会を通して知りました。

——ADRA Japanとの関わりについて

子どもの頃、学校の平和についての授業を通して、将来もしお金持ちになったら困っている人を助けたいと思ったことがありました。現在はお金持ちではありませんが、小さなことから始められる支援があることを知り、ADRAフレンドに参加させていただいています。

——ADRA Japanの魅力や関わっていてよかったことを教えてください

ADRA Newsなどを通して活動や支援の様子を知ることができること、いろいろな方法で支援をするチャンスがあることだと思います。

——まだADRAのことをご存じない方へのメッセージをお願いします

苦難の中におられる方を助けたいの思いはたくさんの方がお持ちのはずです。私自身、小さなことしかできませんが、たくさんの方が集まれば大きな力になると思います。

ADRAでは様々な支援の方法がありますので、まずは知ることから始められると良いと思います。

——ADRA Japanへのメッセージをお願いします

自分で実際に悲惨な現地に行くことはできない中、このように少しでも応援させていただけることを嬉しく思います。これからも神様のお守りの中でご活躍されますようお祈り致します。

色々な寄付のかたち

12月は「寄付月間-Giving December-」です。これは「欲しい未来へ、寄付を贈ろう」を合言葉に毎年12月に全国で行われる啓発キャンペーンです。どんな未来がほしいのか、その意思表示を寄付という方法でしてみませんか？一人でする寄付、仲間とする寄付、会社でする寄付、お金じゃない寄付など、寄付にはいろいろな形があります。あなたにあった方法を見つけてみてください。

1 チャリティイベントへの参加

ADRAを応援するチャリティイベント情報は、Webページ(右のQR)よりご確認ください。チャリティコンサートで得た感動や感謝を、寄付という形で募金箱に入れて表現するのもいいですね！



2 物品でのご寄付

お宝エイドの活動を通じた、宝飾類、ブランド品、絵画、古銭、メダル、ブランド食器、カメラ、楽器などの骨董品によるご寄付です。送料無料で、ご自宅等ご指定の場所へ業者が集荷に伺います。



3 Tポイントでのご寄付

Yahoo! ネット募金のサイトを通して、Tポイントを寄付することができます。Tポイントは、提携店でTカードを提示するだけでも貯められます。



4 一回ごとのご寄付

郵便振替、クレジットカード、銀行振込等によるご寄付を常時受け付けております。支援を希望される活動を指定することも可能です。

【郵便振替】 口座番号：00290-2-34169 加入者名：(特活) ADRA Japan



5 ADRAフレンドとしてのご寄付

マンスリーサポーターとして継続的なご支援をいただくことは、一人ひとりに寄り添う活動の継続において非常に大きな支えとなります。月1,000円からお申込みいただけます。



欲しい未来へ、
寄付を贈ろう。



Giving
December
寄付月間 2023

応援メッセージ

世界平和であることは、一人ひとりの命を大切にすることだと思います。ADRAの活動は、世界平和のための活動です!! 私は、収入が少ないので、ほんの少しの協力しかできませんが、ADRAの活動を応援します!!
(Y.Nさん：ADRAフレンド)

しかたないとはいえウクライナのニュースばかりが目に見えて、継続的・慢性的に紛争が起きている地域があることを忘れていない。支援が必要な場所は世界中にあり、その緊急度や優先度は誰が決めるのか、等々考えてはモヤモヤするが、何も思わないのではないと思って、皆さんの活動に思いを馳せています。
(R.Iさん：ADRAフレンド)

ADRA Japanは「人間としての尊厳の回復と維持」を実現するため、キリスト教精神を基盤として、人種・宗教・政治の区別なく世界各地で国際協力活動を行っています。

ADRA News 138号 2023年12月1日発行

発行人 青木 泰樹
発行 特定非営利活動法人 ADRA Japan (アドラ・ジャパン)
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
TEL: 03-5410-0045 FAX: 03-5474-2042
E-mail: support_adra@adrajpn.org
Facebook: adrajapan X (Twitter): ADRA_Japan
Instagram: adra_japan LINE: https://lin.ee/sbm2uFM

団体概要

法人名 特定非営利活動法人 ADRA Japan
所在地 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
(JR原宿駅 徒歩5分、東京メトロ明治神宮前(原宿)駅 徒歩2分)
代表者 柴田 俊生(理事長)
事務局責任者 青木 泰樹(常務理事/事務局長)
創立年月日 1985年3月30日

Justice.
Compassion
Love



ADRA

デザイン：細山田デザイン事務所